

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度(評価) | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| 学校名 | 佐賀県立鳥栖工業高等学校(全日制) |
|-----|-------------------|
|-----|-------------------|

| | |
|------------------|--|
| 1 前年度 評価結果の概要 | 本校のスローガンである「夢実現」の下、全教職員で就職・進学など生徒を支援し、社会に貢献できる工業技術人の育成に取り組んだ。その結果、就職希望者に関しては早期に100%決定することができた。また、進学希望者についても卒業までに全員の進路を決定することができた。在校生、保護者、学校関係者による評価においても学校への満足度は高く、部活動、資格取得、基本的な生活習慣の確立についての指導に理解を得ていると思われる。 教職員の働き方の推進については、以前より増して様々な事務的作業が増え、なかなか進めることができていない。今後も抜本的な改革が必要である。 来年度も、学校教育目標と重点目標の達成に向けて、生徒の社会性と心の教育を基本にして、基礎学力の向上とものづくり教育の充実を図るように全教職員で取り組んでいきたい。また、少子化の影響等で志願率が低迷することを防ぐため、工業高校の魅力は今後ますます発信していくことが重要課題であるとする。 |
|------------------|--|

| | |
|----------|--|
| 2 学校教育目標 | 広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく、個性豊かで人間愛に満ちた、社会に貢献できる工業技術人の育成を図る。 |
|----------|--|

| | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | ①学力向上(主体的学びの定着) ②工業技術の習得(資格取得の奨励) ③心の教育(人権意識の向上) |
|------------|--|

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| (1)共通評価項目 | | | | 5 最終評価 | | | | 主な担当者 |
|----------------------|--|--|---|---------|---|---------|---|--------------------------|
| 重点取組 | | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標(数値目標) | | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○授業の充実、改善に関する取り組みを行う | ○学習への意欲が高まった生徒80%を目指す | ・全教員が授業の公開を行い、各教科で主体的な学びを目指した授業研究を行う ・各授業担当者による授業アンケートを適宜行い、授業改善に努める | B | 2学期は相互授業参観を実施して、さらなる学習意欲の向上に努めたが2学期末の生徒アンケートには「どちらかといえば、はい」を含め73.3%と減少傾向にある。2学期は体育祭や文化祭など学校行事があり、中休みしやすい学期のうえ、新型コロナウイルス感染症の対応で部活動の大会が延期や中止になったことが影響していると考えられる。リモート授業など、これら新たな授業形態に対応した取り組みが必要である。 | B | ・コロナ禍の中、生徒の安全と健康に配慮し、学校生活の中でコロナと共に何が出来るかを考えて下さい。 ・リモートの活用は今後重要と思います。 ・先生方の学習意欲が生徒へ伝わるように取り組んでください。 | 教務主任 教科主任 学年主任 |
| ●心の教育 | ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○人権意識の向上が見られた生徒及び教職員100%を達成する | ・人権講演会の実施 ・「情報」、LHRにおいて情報モラル教育、人権教育を実施 | A | 人権意識の向上について「はい」または「どちらかというよりは」と答えている生徒が、1学期に比べやや減少したものの、全体では90%を超えている。新型コロナウイルス感染症に対する不安からいじめ事案が発生したりしないよう人権・同和教育への更なる取り組みが必要である。 | A | ・共感する教育が共に大切だと思います。基本をしっかり教えてください。 | 人権・同和教育担当者 学年主任 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○悩みを相談できる教職員がいるという生徒を80%以上を目指す | ・いじめ対応についての研修や啓発活動を年間に2回以上行う | A | 2学期のアンケートでは、80%を超える生徒が悩みを相談できる職員が「いる」または「どちらかというよりは」と答えていて、1学期よりも僅かだが増加した。職員からの積極的な声掛け等、生徒を思いやる行動が功を奏している。今後も続けていく必要がある。 | A | ・生徒さんへの声掛けが一番と感じます。これからの声掛けをお願いします。 ・80%以上の目標は良い事かもしれませんが、100%を目指してください。 | 教育相談主任 生徒指導主任 学年主任 |
| ●健康・体づくり | ○ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 | ◎佐賀県に誇りや愛着を感じる生徒80%以上を目指す | ・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む ・3年次に郷土の歴史や文化を学ぶ講演を行う | B | 佐賀県に誇りや愛着を感じていると答える生徒が1学期から2学期にかけ、70.3%から72.2%と僅かではあるが、増える傾向にある。今年度は特に3年生に対する講演会が好評で、新しい進路を迎える生徒達の自信につながった。今後も資料や講演会を活かし、佐賀の魅力の発見につながるよう工夫を続けたい。 | B | ・生徒がチャレンジする様々な競技会等、佐賀県のレベルの高さを発揮してもらおう。 | 図書主任 3年主任 |
| | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を達成する ○毎日、朝食をとる生徒80%以上を目指す | ・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・全学年に食育に関する講演を行う ・保健だよりの発行 | A | 1学期と同様、生徒・保護者ともに食育に対する関心は高い。毎日の朝食もとっているという生徒の割合が2学期は79.9%とほぼ8割に達しているため、今後も今年度同様の取り組みを行ってほしい。 | A | ・8割の朝食はとても良い方だと思います。今後も朝ごはんが力の源であることを伝えてください。 ・食育の関心が食堂の利用活性化に繋がるようになれば良いと思います。 | 保健主事 食育担当者 |
| ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●生徒及び教職員の交通事故を0(ゼロ)を目指す | ●生徒及び教職員の交通事故を0(ゼロ)を目指す | ・交通安全に対する講演・講話を行う。 ・自転車安全点検の実施(年2回)する | A | 交通安全に対する意識は1学期と同様、生徒・保護者ともに高く、97%を超える生徒・保護者が「安全に気を付けているか」との質問に「はい」または「どちらかというよりは」と答えている。 | A | ・怪我や事故はとにかく怖い。生徒へは普段の生活が危険と隣り合わせの世の中であるということを知ってもらうよう指導をお願いします。 ・交通事故0のために頑張ってください。 | 生徒指導主事 |
| | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する 基本、時間外勤務45時間/月、360時間/年以内を目指す | ・月曜日を定時退勤日とする ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 | B | 学校全職員の時間外勤務の平均は4月～12月の9か月間で283時間である。今後も年間360時間以内を目指し、職員の意識改革を進めたい。また、部活動においては、2学期は90%の部活動で週2日以上の休養日が確保できている。全部活動での休養日確保に努めたい。 | B | ・職務上なかなか私生活への切り替えが難しいかもしれませんが、休養も十分と取ってほしい。 ・現代は生徒に対する指導方法で難易度が上がっており、先生方のストレスも多々あると思うので、心のケアを含め実施していただきたい。 ・働きやすい職場になるように改革を進めてください。 | 管理職 |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | 主な担当者 |
| 重点取組 | | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○工業技術の習得 | ○資格取得の奨励 | ○各生徒が1つ以上の資格を取得する | ・資格の紹介と補習体制の強化 | B | 2学期が終わり、ほぼ今年度の資格取得の機会が減少したこともあり、希望者は減少した。新型コロナウイルス対策で資格試験が取りやめになったものもあり、今年度のジュニアマイスター称号取得者減少の原因にもなりました。1月の調査では78.1%の生徒が1つ以上の資格を取得したと答えている。 | B | 資格取得の機会が奪われたのはとても残念ですが、チャンスがあれば生徒がチャレンジできる環境を少しでも多く作ってください。 ・資格取得の機会が元に戻り、生徒が資格を沢山取得できるように期待します。 | |

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

| | |
|--------------------|--|
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | 「夢実現」の本校スローガンの下、コロナ禍の影響を多少は受けたものの、今年度の進学・就職率は共に100%を達成できた。生徒・保護者・学校関係者による評価においても、本校への満足度は高く、様々な活動に対する理解と協力を得ている。今後も引き続き、リモート授業に教職員一人ひとりが備える必要がある。 ・志願率の低下が今後も危惧される。工業高校の特徴である資格の取得状況の広報や地域貢献活動等を通して工業高校の魅力が学校外へ広がるよう活動の幅を広げる必要がある。 ・今後も教職員の働き方改革を推進する。出退勤管理システムを効果的に活用し、時間外勤務の軽減を図る。また、コロナ禍における会議の在り方等を見直し、今年度以上に健康的で活気のある職場環境を整えていく必要がある。 |
|--------------------|--|